

平成 30 年度文部科学省委託事業
専修学校による地域産業中核的人材養成事業

「部活動指導員養成事業」

成果報告書

平成 3 1 年 3 月

学校法人三幸学園
東京リゾート&スポーツ専門学校

「成果報告書」刊行にあたって

実施委員長 昼間 一彦

平成 30 年度文部科学省委託事業である「部活動指導員養成事業」の成果報告書をお届けいたします。

部活動指導員が「地域産業中核的人材」として位置付けられたことは、運動指導者の養成に携わる者としてその使命の重さを痛感するとともに、本事業を有意なものとするべく意を決するところでございます。

本学園では平成 26 年度より保育分野にて文部科学省委託事業に取り組んできた実績があることから、その経験を活かしつつ、本事業を実施して参りました。部活動指導員分野においては初めての取り組みでしたが、先行して各分野で事業実施をされてきた皆様から多くの貴重なご示唆を賜りましたこと、この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。また、実施委員・分科会委員の先生方におかれましても、本事業に積極的に参画いただけましたことにより、一定の成果と次年度以降への大きな可能性を感じられましたことに対し、重ねて御礼申し上げます。

教員の働き方改革の観点からも運動部活動に対する専門スタッフの養成は喫緊の課題であり、平成 30 年 3 月に公表された「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を元に、各自治体では研修の整備が進んでいます。他方、その規定や内容は自治体毎に異なる現状があり、適切な指導観点や、安全確保の観点が細部まで落とし込まれたプログラムはまだ少ないと感じられます。

実施委員会において部活動指導に関心を持つ社会人を、教育機関や関連業界団体と開発したプログラムを通して養成し、小・中学校及び高校に派遣することで教員の業務負担軽減に資するとともに、社会人の学び直しの機会を提供するという事業の方向性に従い、「開発」「普及」の 2 つの分科会を立ち上げました。

「開発」では、社会人の学び直し観点での利便性を考慮し、e-ラーニング形式を採用いたしました。既存の自治体別研修との整合性も念頭におき、「教育」「安全管理」「指導法」「マネジメント」を領域とするプログラムを作成しました。冒頭にシーンを想定できる物語を提示し、受講者自身が実際の指導現場をイメージしやすい構成を特徴としております。

「普及」では、作成した e-ラーニングプログラムを関連業界団体の皆様に受講頂き、プログラムの質向上に向けたご意見を頂戴いたしました。貴重なご意見を参考にさせて頂き、引き続き部活動指導現場で結果を導き出せるプログラムの開発に努めて参ります。

本報告書では事業全体の流れにのっとり、各分科会の成果を記載しております。この成果が部活動現場で活かされることを願い、本事業を発展させていけるよう引き続き努めて参ります。

最後に、関係各位におかれましては、今後ともご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

構成機関

	構成機関（学校・団体・機関等）の名称	役割等	都道府県名
1	立命館大学	開発	京都府
2	東京未来大学	開発	東京都
3	筑波大学	開発	茨城県
4	株式会社 R-body project	開発	東京都
5	東京リゾート&スポーツ専門学校	開発・普及	東京都
6	一般社団法人日本野球機構	普及	東京都
7	公益財団法人日本サッカー協会	普及	東京都
8	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会	普及	東京都
9	一般社団法人日本フィットネス産業協会	普及	東京都
10	株式会社楽天野球団	普及	宮城県
11	スポーツデータバンク株式会社	普及	東京都
12	札幌スポーツ&メディカル専門学校	普及	北海道
13	仙台リゾート&スポーツ専門学校	普及	宮城県
14	横浜リゾート&スポーツ専門学校	普及	神奈川県
15	大阪リゾート&スポーツ専門学校	普及	大阪府
16	名古屋リゾート&スポーツ専門学校	普及	愛知県
17	福岡リゾート&スポーツ専門学校	普及	福岡県

事業責任者

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
昼間 一彦	学校法人三幸学園 理事長	統括	東京都

事務局

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
西條 康介	学校法人三幸学園 事業開発部 部門長	総括	東京都
兼子 大次郎	学校法人三幸学園	総括・編集	東京都

実施委員

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
昼間 一彦	学校法人三幸学園 理事長	総括	東京都
森岡 孝之	学校法人三幸学園 理事	総括	東京都
中西 純司	立命館大学 教授	開発	京都府
藤後 悦子	東京未来大学 教授 こども心理専攻長	開発	東京都
平岡 拓晃	筑波大学 助教	開発	茨城県
井原 敦	一般社団法人日本野球機構 事務局長	普及	東京都
坂本 典幸	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会 専務理事	普及	東京都
鈴木 岳	株式会社 R-body project 代表取締役	開発	東京都
松村 剛	一般社団法人日本フィットネス産業協会 事務局長	普及	東京都
石塚 大輔	スポーツデータバンク株式会社 取締役	普及	東京都
真壁 潔	公益財団法人日本サッカー協会 理事	普及	東京都
西條 康介	学校法人三幸学園 事業開発部 部門長	総括	東京都
兼子 大次郎	学校法人三幸学園	総括	東京都

分科会①【開発】

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
中西 純司	立命館大学 教授	開発	京都府
藤後 悦子	東京未来大学 教授 こども心理専攻長	開発	東京都
平岡 拓晃	筑波大学 助教	開発	茨城県
荒井 秀幸	株式会社 R-body project コンディショニングディレクター	開発	東京都
高岡 昌弘	東京リゾート&スポーツ専門学校 副校長	開発・普及	東京都
西條 康介	学校法人三幸学園 事業開発部 部門長	総括	東京都
兼子 大次郎	学校法人三幸学園	総括	東京都

分科会②【普及】

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
井原 敦	一般社団法人日本野球機構 事務局長	普及	東京都
坂本 典幸	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会 専務理事	普及	東京都
松村 剛	一般社団法人日本フィットネス産業協会 事務局長	普及	東京都
石塚 大輔	スポーツデータバンク株式会社 取締役	普及	東京都
五十井 寛之	株式会社楽天野球団 スクール部長	普及	宮城県
真壁 潔	公益財団法人日本サッカー協会 理事	普及	東京都
早坂 達	札幌スポーツ&メディカル専門学校 副校長	普及	北海道
伊勢 泰和	仙台リゾート&スポーツ専門学校 副校長	普及	宮城県
高岡 昌弘	東京リゾート&スポーツ専門学校 副校長	開発・普及	東京都
三澤 麻衣	横浜リゾート&スポーツ専門学校 主任	普及	神奈川県
和田 忍	名古屋リゾート&スポーツ専門学校 副校長	普及	愛知県
大友 研八	大阪リゾート&スポーツ専門学校 主任	普及	大阪府
會田 隆太	福岡リゾート&スポーツ専門学校 副校長	普及	福岡県
西條 康介	学校法人三幸学園 事業開発部 部門長	総括	東京都
兼子 大次郎	学校法人三幸学園	総括	東京都

【目次】

事業概要	1
I. 平成30年度事業概要	2
II. 事業計画の概要	2
III. 事業実施体制	6
IV. 各分科会報告	7
1. 分科会①【開発】	8
1.1 概要	8
1.2 プログラムの方向性	8
1.3 e-ラーニングシステムの概要	10
1.4 学習の流れとシステムの仕様	11
1.5 学習項目の分野カテゴリについて	16
1.6 作成プログラム(2018年分)	17
2. 分科会②【開発】	20
2.1 分科会② 概要	20
2.2 モニター受講実施概要	20
2.3 モニター受講の実施結果	22
(1) 学校の組織的理解	22
(2) スポーツの文化的理解	27
総括及び将来の展望	33
成果報告会当日資料	34

事業概要

I. 平成30年度事業概要

平成28年度の文科省発表資料によれば、中学校では約6割に登る教員が過労死ラインを超える長時間労働を強いられており、特に中学校教諭の部活動にかかる1日あたりの勤務時間は土日で2時間を超える上、競技経験のない教員が運動部顧問を務めている事例が多い。このような状況を受け、文部科学省では平成30年3月「部活動のあり方に関する総合的なガイドライン」を策定、自治体を通じて学校へ通達している。

生徒の安全確保・施設設備の管理・大会参加や合宿実施に伴う準備・会計管理・出張等の多様な業務が負担となっており、教員の働き方改革の観点からも運動部活動に対する専門スタッフの供給は喫緊の課題といえる。

他方、スポーツトレーナーを育成する専修学校においては部活動指導員に対する関心が高く、在校生に加えその卒業生、ひいては教職を希望する社会人においても同様と推測される。

これらの現状を踏まえ、本事業は学校運営・生徒指導に明るく、かつ競技経験やスポーツ指導経験、教育に関心を持つ社会人を部活動指導員として育成、市町村立の小中学校及び高校に派遣することで、教員の業務負担軽減に資するとともに、社会人の学び直しの機会を提供するものである。

上記の課題解決に向け、今年度は以下の2点を中心に事業を展開した。

1. eラーニングプログラム（2018年度分）の作成

他分野でのeラーニングプログラムの作成・運用実績や、既存の自治体別研修などを参考に受講ニーズや、社会人の学び直しに適切な教材の方向性を定めた。初年度に作成する教材では、公教育に携わる指導者として身につけるべき資質の観点を中心に内容を選定し、5分×46ユニット分のeラーニングプログラムを作成した。

2. 2019年度の実証に向けた準備・及び作成プログラムの方向性の検証

作成したeラーニングプログラムの一部を三幸学園内部の関係者で受講し、教材の方向性（長さ・表現など）を中心にアンケートを取得した。取得したアンケートを元に、教材の方向性の確定、今後の開発内容の選定へと繋げていく。

II. 事業計画の概要

平成30年9月時点における事業計画書の抜粋を以下に記載する。

1. 講座の学習ターゲット・目指すべき人物像

想定する対象者は学校教育における部活動指導に関心のある者で、生徒の安全確保を第一に考え、適切な指導観点を持った部活動指導員として活躍できる人材の育成を目指す。

2. 事業を推進する上で実施する会議

会議名①	実施委員会		
目的	2つの分科会の作業進捗確認、成果目標および達成状況の確認		
検討の 具体的内容	・本事業の目的及び全体像共有 ・各分科会及び委員の役割の明確化 ・事業計画書に沿ったスケジュールの確認 ・e-ラーニング開設までの一連のプロセスのガイドラインとしての集約の方向性について		
委員数	14人	開催頻度	1～2回

会議名②	分科会①【開発】		
目的	・事前調査 ・カリキュラム開発		
検討の 具体的内容	・開発する教育プログラムについて詳細を検討 ⇒教育プログラムの仕様・学習内容・提供方法等 ・検討事項の本事業への活用・影響（想定） ・開発するカリキュラム・教材の方向性検討に活用		
委員数	7人	開催頻度	2～3回

会議名③	分科会②【普及】		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関への協力要請 ・実証講座準備及び実施 		
検討の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実証講座の対象者選定及び受講依頼 ・受入時期及び期間 ・部活動及び分科会へのフィードバック等について受入機関と調整 ・自治体及び団体での普及および活用促進 ・開発した教育プログラムの改善点抽出 		
委員数	15人	開催頻度	3回

3. 社会人の学び直しを推進するために実施する工夫の概要

【自治体の既存の取り組み（一部）】

■横浜市：

教育委員会が『横浜市立学校教職員の働き方改革プラン』（平成30年3月）において4つの重点戦略を策定。戦略3「チーム体制の構築と人員配置の工夫・充実」で専門スタッフの配置の一環として部活動指導員の新規配置・支援体制の構築をあげている。平成30年度は50名程度の部活動指導員を中学校に配置し、以降、効果検証踏まえて顧問教諭から部活動指導員への転換を図る方針。

■福岡市：

教育委員会が『福岡市立学校教職員の業務改善のための実施プログラム』（平成30年3月）において具体的な業務改善（取り組みの柱）を記載。「部活動指導にかかわる負担の軽減」の必要性に言及。

■静岡市：

教育委員会が『静岡市立中学校部活動ガイドライン』を策定するとともに研修を実施、特に外部顧問に任命する際にはライセンスの付与を行っている。平成30年度より経過措置を伴うガイドラインの実施を行っており、平成31年度8月には全面実施を予定している。

<想定される具体的な連携内容>

- ・行政が関わる各学校・機関への調査協力依頼
- 例) 部活動指導員及び受入校・機関への協力要請・回答依頼
指導時に遭遇したヒヤリハット事例の提供
- ・既存の研修内容の開発する教育プログラムへの反映
- 例) 行政・学校設置者が実施している研修内容・実施方法・時間数等
情報提供いただき、事前調査の結果を踏まえたカリキュラムを検討

【学園の在校生・卒業生】

■リゾートアンドスポーツ専門学校：

全国9拠点、スポーツインストラクターを養成している専門学校（累計卒業生数は26,000人超）。教育カリキュラムの共同開発における企業（ルネサンス）との連携実績を有する。在校生対象に部活動指導員の資格に対する取得希望を調査した際、68%が「取得したい」と回答し、資格取得に前向きな姿勢が伺われた（図1参照）。ここから卒業生のなかに、部活動指導に対し高い関心を持つ社会人が多数いると想定される。

部活動指導員として活動するための資格が制定された場合、取得したいですか（%）



図1 部活動指導員への興味関心を問う質問への回答

<想定される具体的な連携内容>

- ・事前調査への協力要請
- 例) 専門学校卒業生の就職先・実習先でつながりのある企業・団体への回答依頼及び後追い
- ・実証講座への協力
- 例) 上述した企業・団体への、実証講座の受講生受入依頼
対面講座実施のための教室提供

【参画企業の既存の取り組み（一部）】

■スポーツデータバンク株式会社：

顧問教諭に代わる部活動指導員のマッチング・派遣の実績を有する企業。尚、取締役・石塚氏はスポーツ庁発表「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン作成検討会議」委員を任命されている。

<想定される具体的な連携内容>

- ・事前調査への協力
- 例) 対象者（学校の部活動顧問、すでに活躍している部活動指導員）への事前調査への回答依頼
- ・カリキュラム作成における助言及び教育プログラムの学習内容に資する情報の提供
- 例) 部活動指導員に要求される知見やノウハウ、受入校からよく聞かれる質問や要望等の情報提供
- ・実証講座における受講生受入機関調整・手配
- 例) 受講生・学校とのマッチング

【参画団体の既存の取り組み（一部）】

■公益財団法人日本ラグビーフットボール協会

■公益財団法人日本サッカー協会 等

競技普及、年代に応じた適切な指導の周知、安全対策・応急処置の周知など

<想定される具体的な連携内容>

・カリキュラム作成における助言及び教育プログラムの学習内容に資する情報の提供

例) 競技・年代に応じた効果的・効率的な指導方法についてのノウハウ提供、

チームビルディング、生徒対応に関する教材の事例提供、

安全対策・応急処置に関する教材提供及びヒヤリハット事例の提供

4. 事業実施に伴う成果物（成果報告書を除く）

■ 3か年を通じた成果物

① 事前調査の集計・分析結果

社会人が実施しやすいと感じる学び直しの教材・提供方法等の調査結果を集約し、部活動指導員に関心のある層の特定、及びどのような研修形態・カリキュラムが希望されているかを明らかにする。調査対象を専門学校在校生・卒業生、教育委員会、各自治体の人材バンク登録者、学校の部活動顧問、すでに活躍している部活動指導員及び部活動指導員の派遣事業を実施している企業・団体と広く設定したうえで調査実施・結果を分析することで、より多角的な視点から学び直しを捉えられると想定される。

②体系的な部活動指導員養成カリキュラム及び教育プログラム

カリキュラムを開発。またそのカリキュラムを具現化した、e-ラーニングと対面講座を組み合わせた教育プログラムを開発。

③ e-ラーニング講座開設ガイドライン

本事業により得た対面講座と組み合わせた e-ラーニング講座開発のノウハウを、ガイドラインとして集約。多様な専門学校において社会人の学び直しの場を提供する手段として e-ラーニング開設を検討する際の判断基準や等を含めた手引書を作成する。

④ 他の専修学校においても実施可能なモデル構築

本事業において実際に自治体・学校と連携することで、他の専修学校で実施可能なモデルを構築する。とくに e-ラーニング教材については本事業終了後も無償公開となることから、主に専修学校における部活動指導員養成研修に活用できるよう普及させる予定。また対面講座においては指導案レベルのもので作成検討予定。尚、行政（自治体）に対しても副次的に活用を提案していく予定。

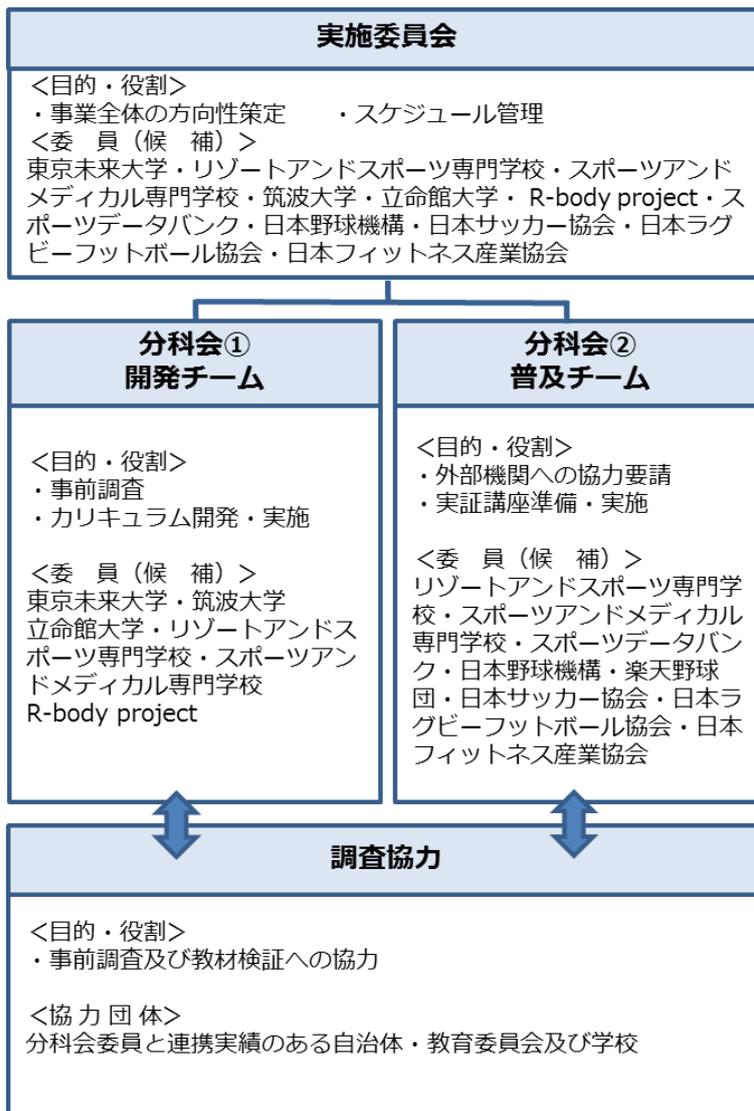
Ⅲ. 事業実施体制

本事業は全体の方向性を策定し、進捗管理を行う実施委員会のもと、2つの分科会がワーキンググループを組織し、連携を取ることで組織していく。

2つの分科会はそれぞれ、eラーニング学習プログラムの開発を行う分科会①「開発」と、作成したプログラムの実証及び普及を行う分科会②「普及」である。

事業実施における体制図は次の通りである。

図1 事業実施体制図



各分科会報告

1. 分科会①【開発】報告

1.1 分科会①概要

分科会①では、教材は Web 上で受講が可能な e-ラーニング教材での制作とし、学園内における他分野でのプログラム作成実績や、既存の研究調査や自治体別養成研修からの情報を元に、教材の方向性（長さ・表現など）と、作成する分野カテゴリを設定し、「教員の働き方改革」の一助となり、かつ社会人の学び直しの促進となることを目指した e-ラーニング教材 46 ユニット分を作成した。

1.2 プログラムの方向性

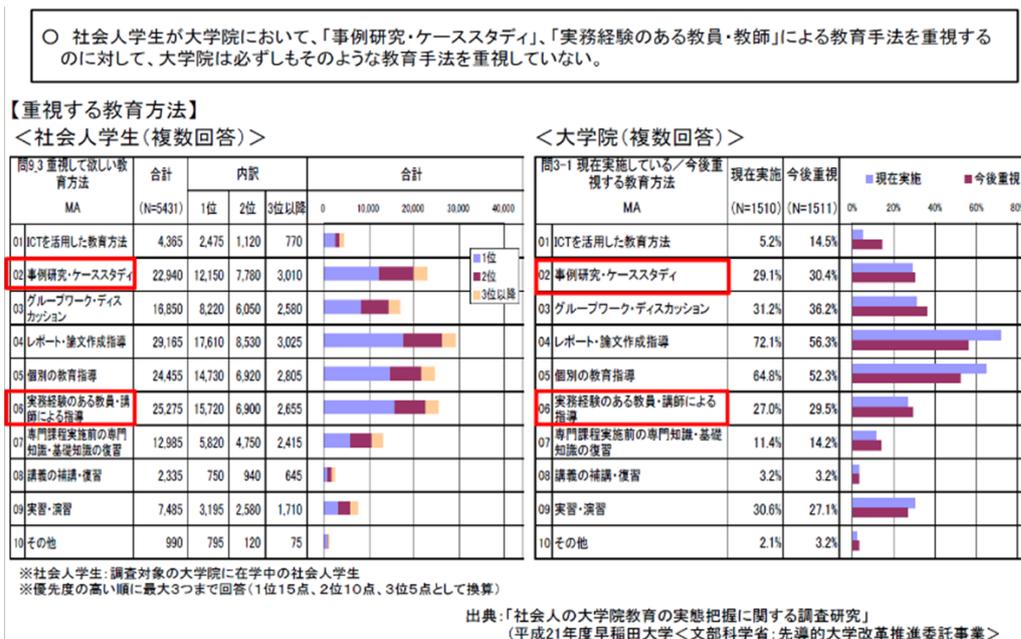
方向性については、以下のような社会人の学び直しが進んでいない課題へ対応することを目指した。

(1) 学び直し及びその成果に対する不安・懸念

⇒学び直しを希望する側の期待する教育方法と、教育機関が提供する教育方法の齟齬があると想定される。図2は社会人学生が大学院において重視する教育手法と、大学院側が重視する手法の齟齬を示したものである。

このような齟齬故に、学びの有効性、すなわち学習内容の活用に対する見通しが持ちづらいと推測される。

図2



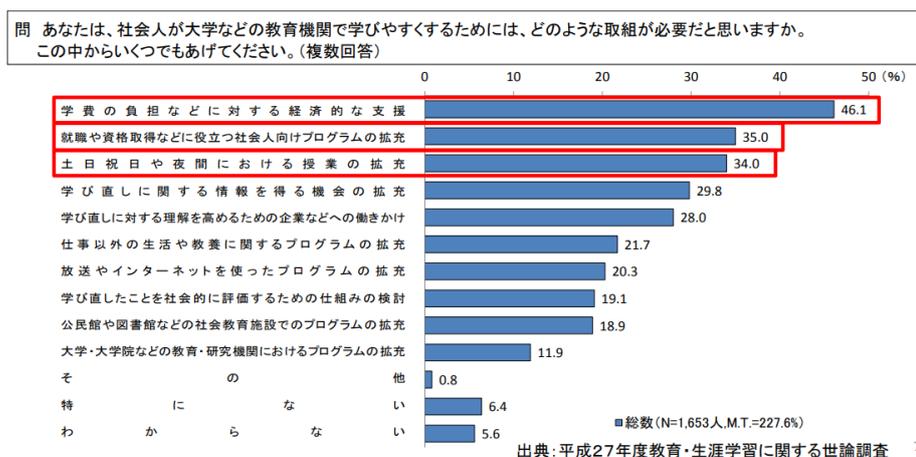
【対応】

- ・ケーススタディで統計情報や、よくある事例などを教材として取り入れる。
- ・「何について学び」「どのような場面で」「何ができるようになるのか」がイメージできるよう冒頭に物語を配置し、受講者がよりシーンを想定しやすいようにする。

(2) 学習開始時の費用負担、特に初期費用に対する不安感

⇒学び直しを促進していく上で、金銭的な部分での懸念も大きい。(図3参照)

図3



【対応】

- ・無償での教材公開
- ・三幸学園の各拠点を活用した受講環境の整備(施設費用軽減)

(3) 学習時間や学習する時間帯への不安

⇒土日・祝日の開催や、受講制約の少ない形式での学習環境ニーズが高い

(図3・4参照)

図4

大学等において重視してほしい(重視している)教育環境

順位	社会人学生	企業用	社会人教育未経験者
1	安い授業料	社会人に配慮した時間帯の開講	安い授業料
2	社会人に配慮した時間帯の開講	短期間で修了できる	インターネットによる授業
3	教員の充実	インターネットによる授業	社会人に配慮した時間帯の開講

△「平成27年度 先導的大学改革推進委託事業 社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究報告書」(p.77)より作成

【対応】

- ・受講環境を選ばないeラーニング形式
- ・1ユニットあたり5分のプログラム

1. 3 e-ラーニングシステムの概要

(1) 使用したシステム

本事業で使用した株式会社プロシーズの e-ラーニングシステム Learning Ware (ラーニングウェア) は、e-ラーニングコンテンツの配信やその学習進捗管理だけでなく、集合研修出欠確認やレポート提出など、研修全般の管理が行え、学習者同士のコミュニケーションを促進する SNS 機能が搭載された学習管理システムである。

(2) Learning Ware の主な機能一覧

1) 学習機能

分類	説明
登録	(ア) ログオフ時の連絡先の確保を目的にユーザーは登録が必要となる。 登録手順は以下の通り： ① メールアドレスの仮登録 ② ID、パスワード、本登録用 URL を記載したメールを受信 ③ 上記 URL にアクセスすることで本登録完了 (イ) 属性調査アンケート機能を搭載する。質問項目は 5 問程度を想定。 質問事項は分科会で作成する。
講義	・ 掲載された講義の閲覧が可能 (要無料登録) ・ 講義全体については、いずれの分野・ユニットからでも閲覧が可能
アンケート	管理者が登録したアンケートに回答可能

2) 成績管理機能

機能	説明
講座進捗	・ 講座の進捗状況をユーザー別に把握。
テスト	・ ユーザーが受験したテストの詳細を管理 ・ 受検日時及びテスト結果の確認が可能 ※テストについては次年度以降に作成する見込み
レポート	・ 提出レポートの評価及び進捗を管理しコメントの入力も可能
ログイン状況	・ ログイン状況を管理 (ログインした時間や受講環境の確認が可能) する機能の装備

3) 管理者からの情報発信・ユーザー管理機能

機能	説明
メール	<ul style="list-style-type: none"> 学習者がログオフ時に閲覧できるよう、ユーザーにメールを送信することができる。ユーザー別送信・一括送信の選択可能。発信のタイミングも設定可能とする。
アナウンス	<ul style="list-style-type: none"> ログイン時のトップ画面に表示されるアナウンス文を登録できる。
アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 回答方法は単数回答、複数選択、記述式等の設定が可能。 質問数は最大で20問程度を想定 アンケートの回答結果を定期的にグラフ化 実証講座アンケートの場合、質問事項等は分科会で検討・作成する
グループ管理	<ul style="list-style-type: none"> ユーザーをグループ分けし、グループごとに管理者を設定できる

(3) Learning Ware 動作環境

- ・ OS
 - ▼パソコン：Windows Vista、7、8、8.1、10、Mac OS X
 - ▼タブレット、スマートフォン：iOS8 以上、Android4.4 以上
- ・ ブラウザ
 - ▼パソコン：Microsoft Internet Explorer9/10/11、Firefox(39.0)、Google Chrome(43.0)
 - ▼タブレット、スマートフォン：
 - Safari(iOSのみ)
 - Android 標準ブラウザ(Android4.4のみ)、
 - モバイル Chrome(Android5のみ)

1.4 学習の流れとシステムの仕様

(1) e-ラーニング受講手順

1) 配布された ID とパスワードで以下の URL よりログインする

<https://www.learningware.jp/bukatsu/ps/Default.aspx>

ログイン画面

トップページ画面



講座一覧画面



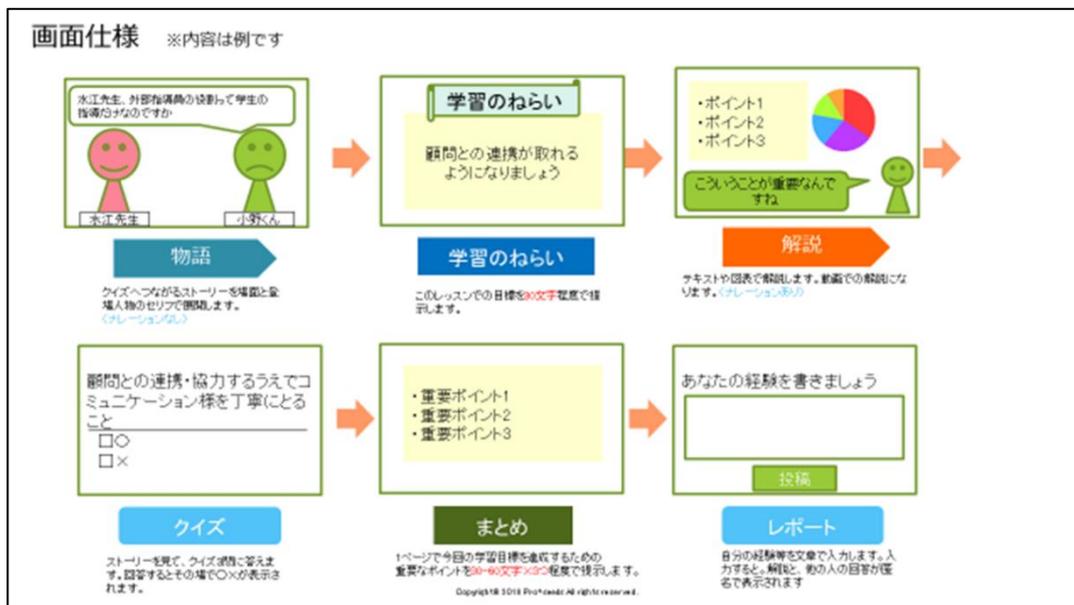
受講するボタンを押して
教材を表示する



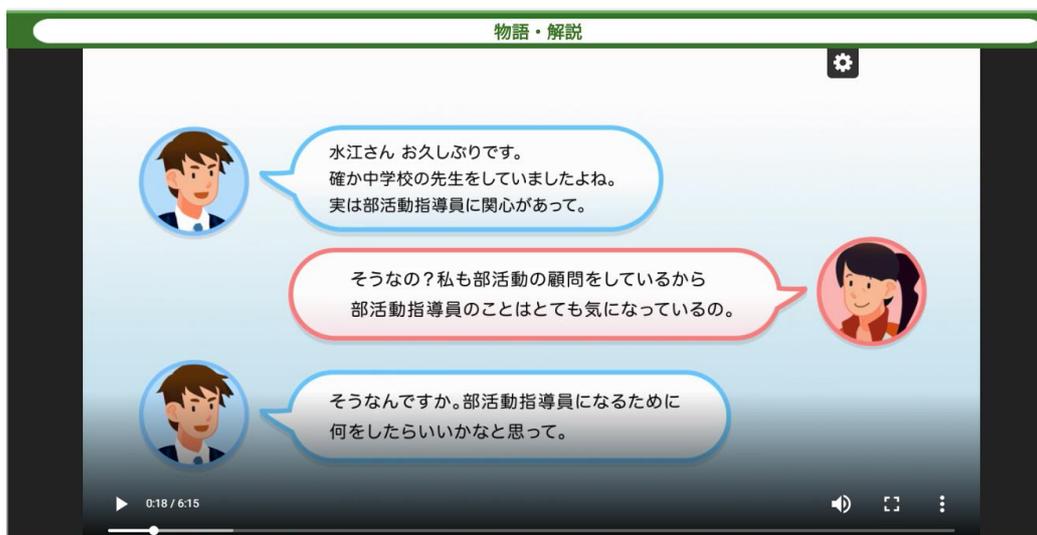
事前アンケート画面



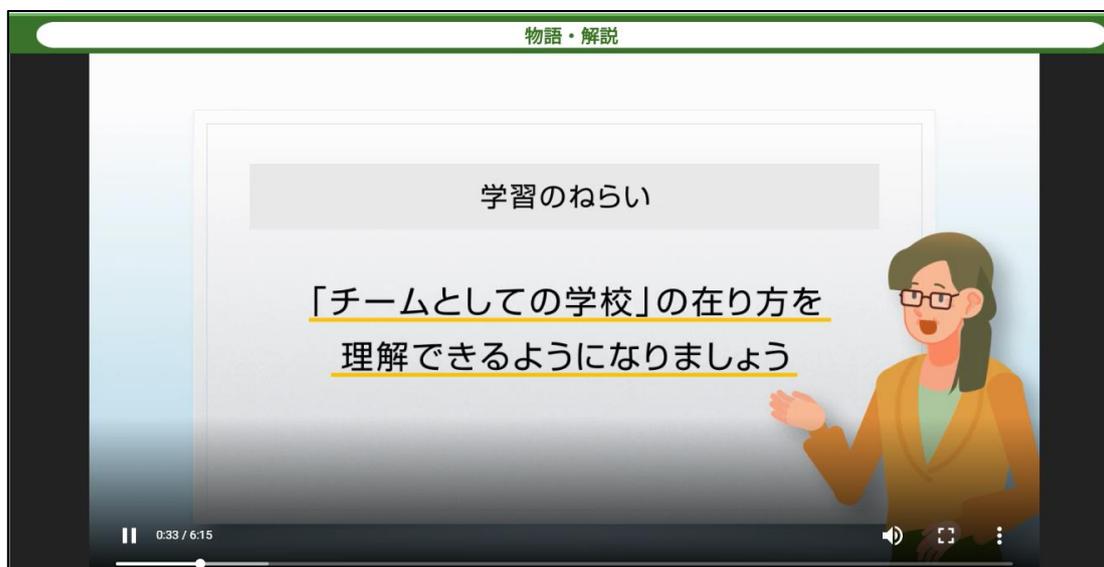
(2) 各ユニットの流れ



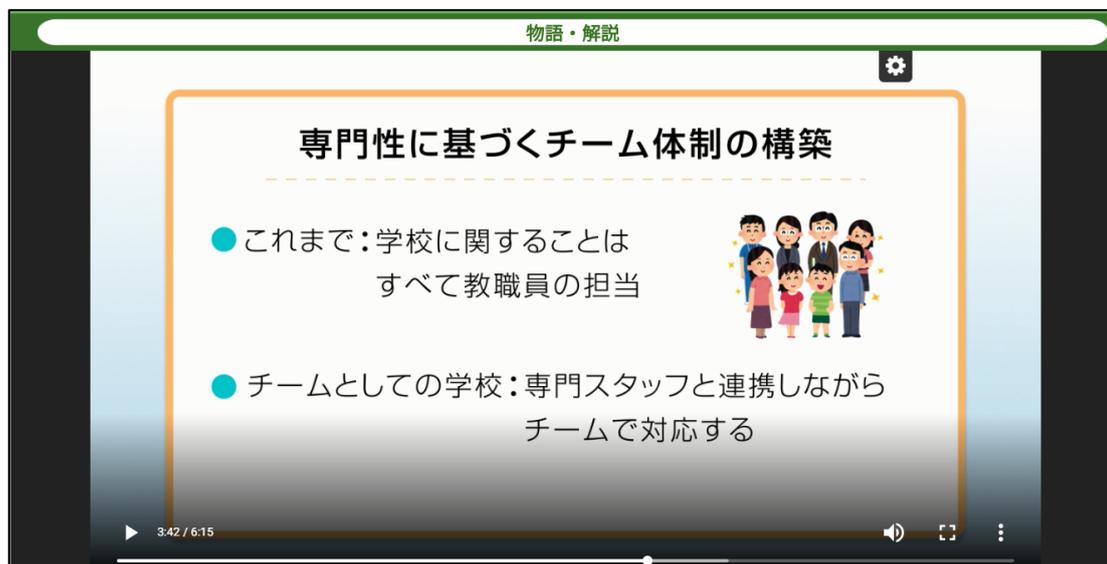
1) シーンを連想させる物語が冒頭に設定されている



2) 物語に紐付いて、学習のねらいを掲出し、学習する内容を明確にする



3) 解説で専門知識を享受する



4) クイズに回答し、知識の定着を図る

The screenshot shows a quiz interface with a green header containing '1-1 学校運営における組織体制' and a hamburger menu icon. Below the header is a white bar with 'クイズ 1'. A progress indicator consists of a series of circles, with the first two being white and the remaining seven being pink. The main content area has a yellow and white striped background. It features a question box with a question mark icon and the text: '学校は教育課題を克服するために「チームとしての学校」を実現する必要がある'. Below the question are two light green input fields, the first containing a circle '○' and the second containing an '×'. At the bottom center is an orange button with the text '判定' and a right-pointing arrow.

5) まとめ

The screenshot shows a video player interface for a summary video. The header is green with '1-1 学校運営における組織体制' and a hamburger menu icon. Below the header is a white bar with 'まとめ'. The video player area has a dark background and displays a slide with the title 'まとめ < 学校運営における組織体制とは >'. The slide contains three bullet points: '学校は教育課題を克服するために「チームとしての学校」を実現する必要がある', '教員の指導体制は職階と校務分掌によって構成されている', and '教員以外の専門スタッフの参画が望まれている'. The video player controls at the bottom show a progress bar at '0:22 / 0:27', a volume icon, and a speaker icon with the text 'お疲れ様でした'. At the bottom center is an orange button with the text '次のユニットへ' and a right-pointing arrow.

1.5 学習項目の分野カテゴリについて

既存の自治体別養成研修を参考に、図5の通り「教育」「安全管理」「指導法」「マネジメント」の4カテゴリを設定した。

図5

分野カテゴリ				
	教育（ハラスメント含）	安全管理	指導法	マネジメント
	運動系部活動に携わる指導者としての資質を身に付ける	安全管理の為の環境整備と緊急時の対応を身に付ける	個の発達段階に応じた指導法を身に付ける	公教育におけるマネジメントスキルを身に付ける
2018年度 (200分)	・指導者として公教育に携わる基本的知識	・安全管理の基本的知識 ・一次救命措置 ・事前の安全管理	・現代に見合ったコーチング	・部活動指導員の具体的業務
2019年度 (200分)	・指導者としてのハラスメント理解 ・集団への支援方法	・事前の安全管理(応用) ・熱中症対応	・汎用性のある指導法の理解 ・トレーニングの基本的知識 ・コーチングの基礎	・集団（チーム）のマネジメント ・部活動におけるガバナンス体制
2020年度 (200分)	・個別の支援方法	・障害予防	・ふさわしいコーチング ・発達段階に応じた指導法	・保護者との連携

それぞれのカテゴリにおいて習得を目指す内容は以下の通り。

(1) 教育

- ・運動系部活動に携わる指導者としての資質を身に付ける
- ・公教育に携わる指導者としての素地を身に付ける

【タイトル例】

「部活動指導員が起こし得る問題(ハラスメント)」

「教育制度と部活動」

「部活動を取り巻く社会的変遷」

(2) 安全管理

- ・安全管理の為の環境整備と緊急時の対応を身につける

【タイトル例】

「教育現場における安全管理の法的責任」

「部活動現場における負傷・疾病の実態」

「学校における体制整備（緊急事態発生時の体制）」

(3) 指導法

- ・個の発達段階に応じた指導法を身に付ける

【タイトル例】

- 「スポーツにおけるコーチング」
- 「スポーツ指導の基本原則」
- 「スポーツにおける暴力根絶に向けて」

(4) マネジメント

- ・公教育におけるマネジメントスキルを身に付ける

【タイトル例】

- 「学校における組織体制」
- 「部活動指導員の具体的業務」
- 「部活動組織のマネジメント」

1.6 作成プログラム（2018年度分）

上記4カテゴリの中で、2018年度は公教育に携わるための資質を身につける内容を中心に作成をした。次年度以降作成を検討している内容のベースとなるプログラムの作成に時間をかけた。

- 「教育」：24ユニット 「安全管理」：8ユニット
- 「指導法」：5ユニット 「マネジメント」：8ユニット

2018年度合計：46ユニット

分野	ユニットNo.	分野タイトル	章タイトル	学習のねらい
-	1	-	プログラムIについて	
マネジメント	2	1. 学校の組織的理解	学校運営における組織体制	チームとしての学校の在り方を学びましょう。
マネジメント	3		組織における校務とその概要	学校組織の体系と主要な校務の概要を理解しましょう。
教育	4	2. スポーツの文化的理解	近代スポーツの誕生と発展（スポーツの文明化）	19世紀の近代英国において誕生した「近代スポーツ」とは何かを学びましょう。
教育	5		文化としてのスポーツの価値	スポーツの文化性とスポーツの価値について理解を深めましょう。
教育	6		人間とスポーツのかかわり（豊かなスポーツ生活）	人間とスポーツの「3つ」のかかわり方と豊かなスポーツ生活について学習しましょう。

教育	7	3. 部活動の位置づけ	学校の場に関連する法規	教育現場に関係する法規について学びましょう。
教育	8		教育制度と部活動	教育制度の中での部活動の位置づけを理解しましょう。
教育	9		課外活動（部活動）の位置づけ	課外活動における部活動の位置づけについて学びましょう。
教育	10		部活動の教育的意義（or 生涯学習を培う部活動の在り方）	部活動の教育的意義を確認しましょう。
教育	11		部活動の社会的意義	部活動の社会的意義を学びましょう。
教育	12		部活動を取り巻く社会的変遷	部活動を取り巻く社会的変遷を見てみましょう。
教育	13		部活動の現状	部活動の現状について理解しましょう。
教育	14		部活動の課題①	部活動の課題について学びましょう。
教育	15		部活動の課題②	部活動の運営上の課題について学びましょう。
教育	16	4. 部活動指導員の職責の自覚	部活動指導員の役割	部活動指導員が果たすべき役割について学びましょう。
教育	17		部活動指導員の倫理	部活動指導員として必要な倫理について理解を深めましょう。
教育	18		指導者としてのマナーと人格	学校の教職員として意識すべきマナーを確認しましょう。
教育	19		部活動指導員が起こしうる問題①「ハラスメント」	物理的なハラスメントに相当する事例の理解を深めましょう。
教育	20		部活動指導員が起こしうる問題②「ひいき」	精神的なハラスメントに相当する事例の理解を深めましょう。
教育	21	部活動指導員が起こしうる問題③「発達段階の理解不足」	発達段階の理解不足に相当する事例の理解を深めましょう。	
教育	22	5. プレイヤー（児童・生徒）の理解	児童・生徒の身体的発達	出生から成熟に達するまでの身体的発達について学びましょう。
教育	23		児童・生徒の精神的発達（児童期の発達）	児童期（6～12歳程度）の心の発達課題について理解しましょう。
教育	24		児童・生徒の精神的発達（思春期の発達）	思春期の心の発達課題と第2次性徴について学びましょう。
教育	25		学校生活の理解（教師との関係）	生徒に与える指導者の影響について学びましょう。
教育	26		学校生活の理解（仲間との関係）	児童・思春期の仲間関係の変化と特徴について学びましょう。
教育	27		家庭生活の理解	児童・思春期の親子関係の変化と特徴について学びましょう。

マネジメント	28	6. 部活動指導員の具体的業務Ⅰ（管理）	活動計画の作成	活動計画の作成について学びましょう（年間、期間、1日）
マネジメント	29		顧問との連携	顧問の教員と連携について学びましょう
マネジメント	30		関係機関との連携	関係機関との連携について学びましょう（保護者・連盟・地域団体）
マネジメント	31		事務手続き	各種事務手続きについて理解を深めましょう
マネジメント	32	7. 部活動指導員の具体的業務Ⅱ（指導）	生徒の活動観察と実技指導	生徒の活動観察や実技指導について学びましょう
マネジメント	33		目標を固定しない柔軟な指導	目標を固定せず、部や個人の状況を評価し、柔軟な対応ができる
指導法	34	8. 新しい時代にふさわしいコーチング	スポーツのコーチングと人間形成	スポーツのコーチングにおける人間形成の重要性について学びましょう
指導法	35		スポーツにおけるコーチング	勝利のみにこだわったコーチングに疑問を持ちましょう。
指導法	36		コーチングに必要な知識・技能	生徒の体調を把握、予測し、個々に即した指導を意識しましょう。
指導法	37		スポーツ指導の基本原則	生徒に主体性が芽生える指導について学びましょう。
指導法	38		スポーツにおける暴力根絶に向けて	インテグリティのある指導について学びましょう。
安全管理	39	9. 部活動における安全管理Ⅰ	教育現場における安全管理の法的責任	教育現場における安全管理の法的責任について学びましょう
安全管理	40		教育現場における安全管理の義務	教育現場における安全管理の義務について学びましょう
安全管理	41		部活動における負傷・疾病の実態	部活動における負傷・疾病の実態について学びましょう
安全管理	42	10. 事前の安全管理Ⅰ	学校における体制整備（緊急事態発生時の体制）	学校における緊急時の体制整備について学びましょう
安全管理	43		施設・設備・用具の安全点検と安全管理	施設・設備・用具の安全点検と安全管理について学びましょう
安全管理	44		生徒の健康管理	生徒の健康管理について重要な観点を学びましょう
安全管理	45	11. 事後対応Ⅰ	情報の整理	学校現場における情報の整理について学びましょう
安全管理	46		報告・再発防止等	部活動における有事の際の報告・再発防止について学びましょう

2. 分科会②【普及】

2.1 分科会②概要

分科会②では、事業全体の方向性と併せて、2018年度分のプログラムの共有を行い、次年度以降の検証スケジュールを検討した。

また、開発したe-ラーニングプログラムの有効性を図るために「学校の組織的理解」「スポーツの文化的理解」の2つのタイトルのみ、三幸学園内部で315名を対象にモニター受講・アンケート回答を行った。

2.2 モニター受講実施概要

(1) 目的

2018年度に開発したe-ラーニングプログラムの方向性（長さ・表現など）は適切であったかを図る一つの指標の確保、及び今後取り扱うべきプログラム内容（受講ニーズ）の抽出を目的とする。

(2) モニター対象

学校法人三幸学園リゾート&スポーツ専門学校・スポーツ&メディカル専門学校（全9校）の在校生・教職員を受講対象とした
在校生：180名 教職員：135名 計：315名

(3) 実施方法

開発したプログラムの中から2章を対象とし、各人1章を割り当てた

(4) モニター用アンケート項目

1) 事前アンケート

基本属性として年齢・性別・スポーツ指導経験の有無を訊ねた

2) プログラムの評価

開発したe-ラーニングプログラム「学校の組織的理解」「スポーツの文化的理解」について訊ねた

3) 受講のし易さの評価

受講時間・内容理解のしやすさについて訊ねた

(5) アンケート

1) 役に立ちそうな情報が得られましたか

- ①そう思う ②ややそう思う ③ややそう思わない ④そう思わない

2) プログラムの長さはいかがでしたか

- ①ちょうどいい ②長い ③短い

3) WEB 上で情報が得られる利便性は感じられましたか

- ①そう思う ②ややそう思う ③ややそう思わない ④そう思わない

4) 1つのコンテンツの情報量はいかがでしたか

- ①適切 ②多い ③やや多い ④やや少ない ⑤少ない

5) 得た知識は今後のキャリア形成に役立ちそうですか

- ①そう思う ②ややそう思う ③ややそう思わない ④そう思わない

6) 学習プログラムをどのようなときに使用したいですか

- ①移動などの隙間時間に利用 ②自宅でまとまった時間に利用 ③休憩時間に利用
⑤ その他

7) 受講した感想を教えてください※受講したタイトルを選択させる

- ①とても良かった ②まあ良かった ③普通 ④あまり必要がなかった
⑤必要がなかった

8) コンテンツ内容は随時更新予定です 今後も利用したいですか

- ①そう思う ②ややそう思う ③ややそう思わない ④そう思わない

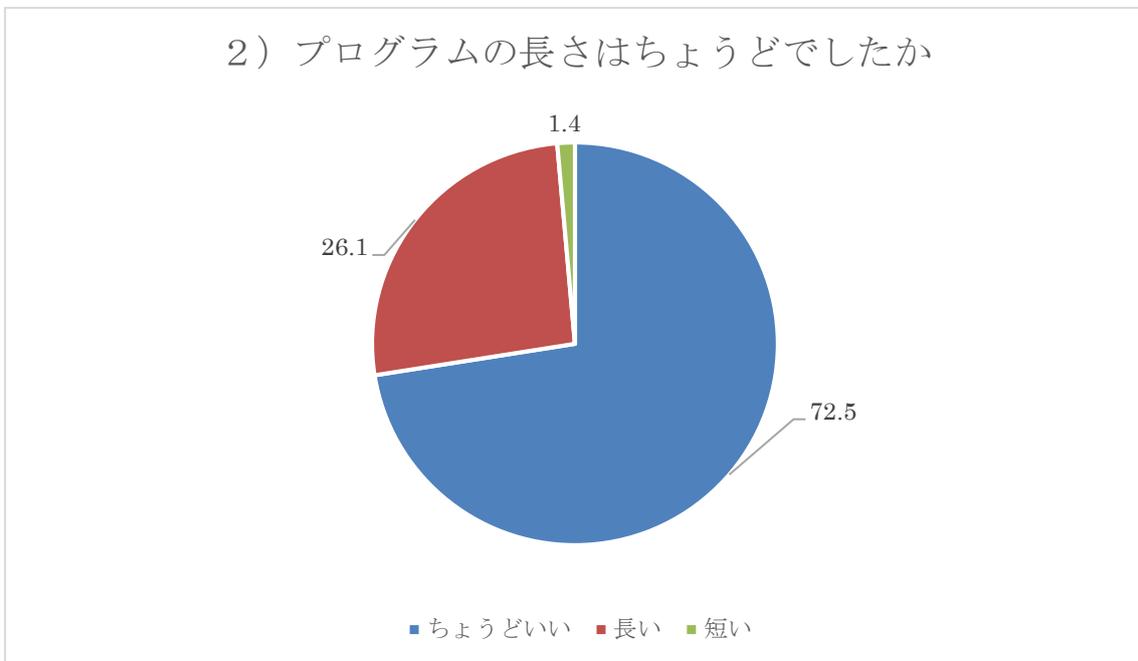
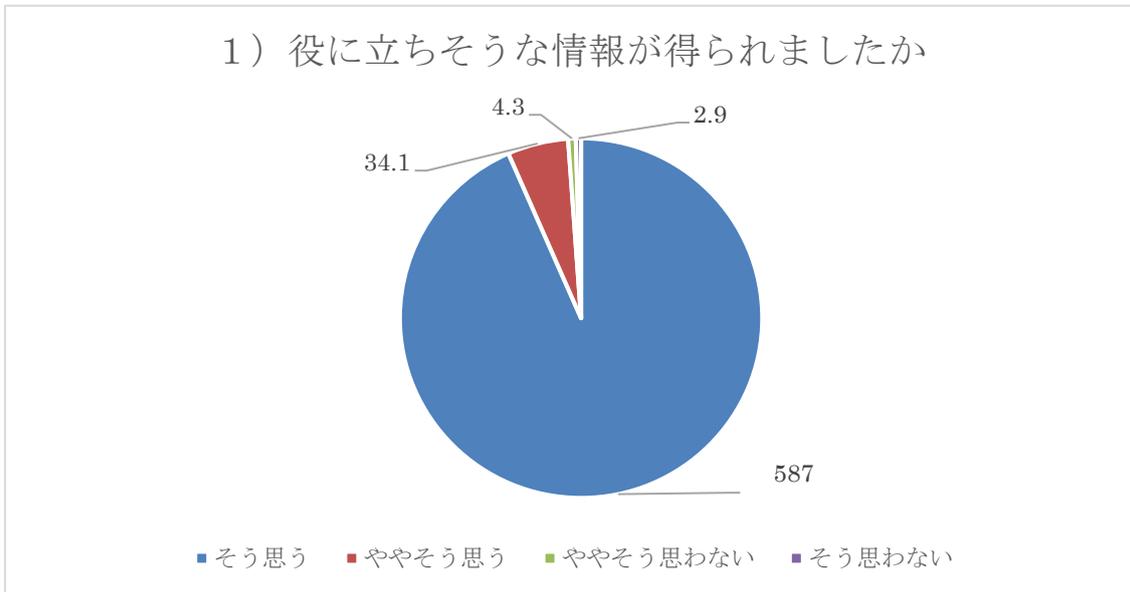
9) 他に得ることができたら良いと思う情報はありますか ※記述式

10) プログラム全般に関して良いところ、改善すべきところ

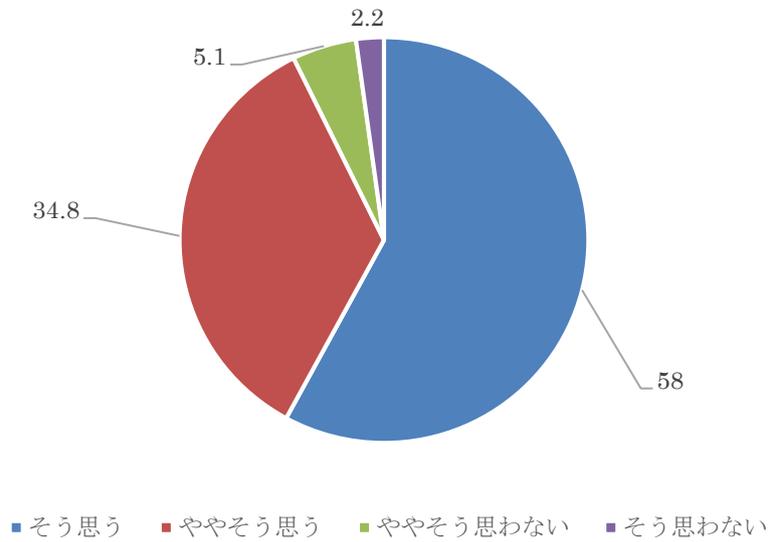
(分かり難いと感じたところなど) ※記述式

2.3 モニター受講の実施結果

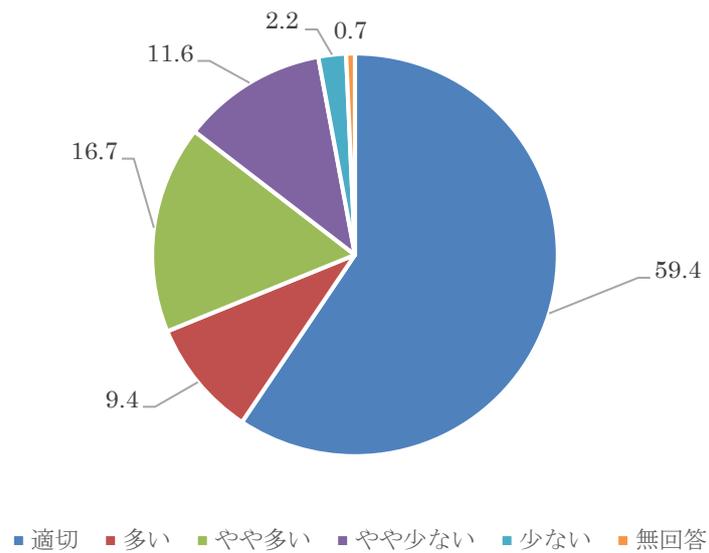
(1) 「学校の組織的理解」



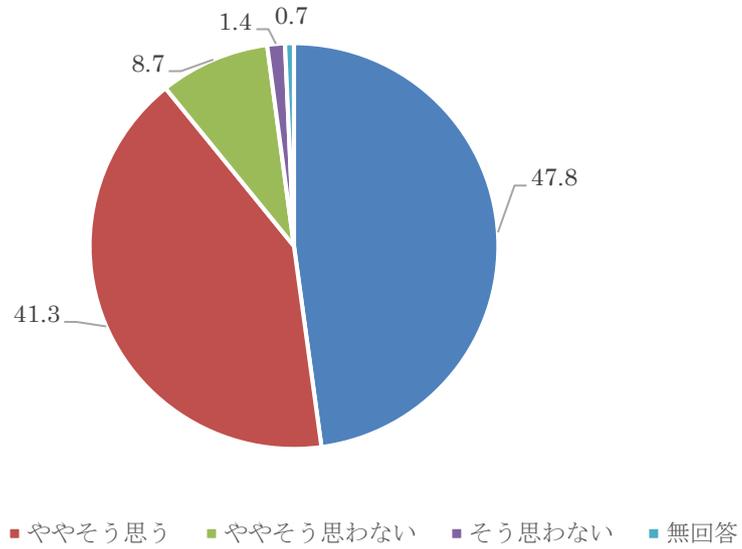
3) WEB上で情報が得られる利便性は感じられましたか



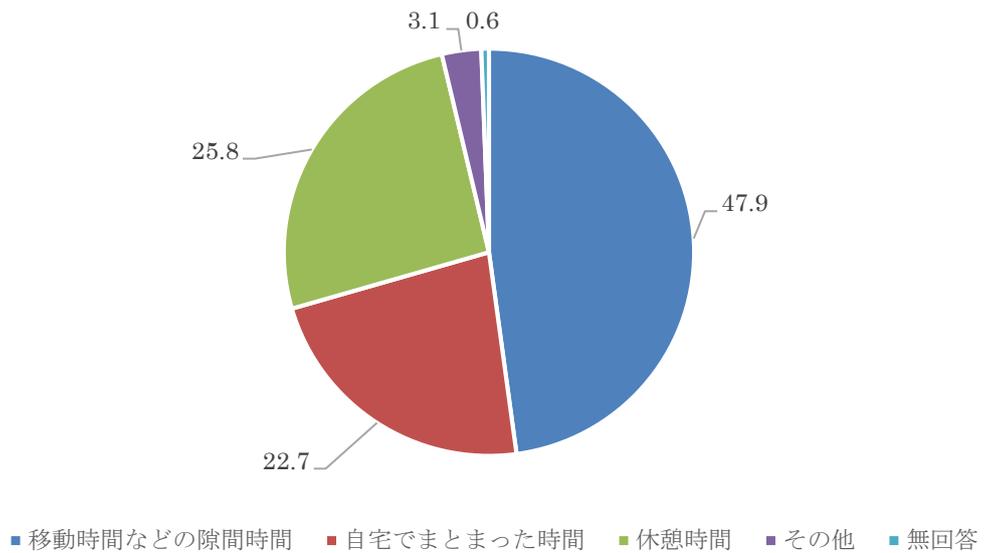
4) 1つのコンテンツの情報量はいかがでしたか



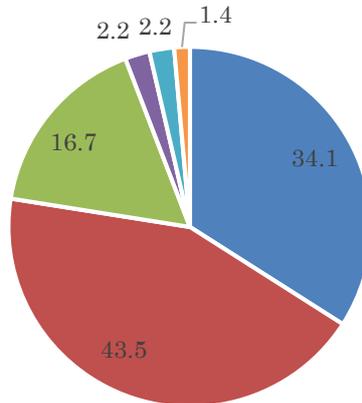
5) 得た知識は今後のキャリア形成に役立ちそうですか



6) 学習プログラムをどのようなときに使用したいですか

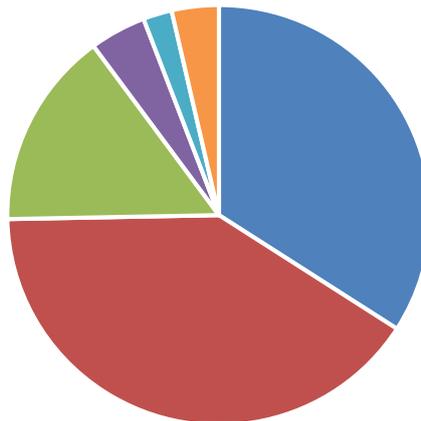


7) 受講した感想を教えてください
「学校運営における組織体制」



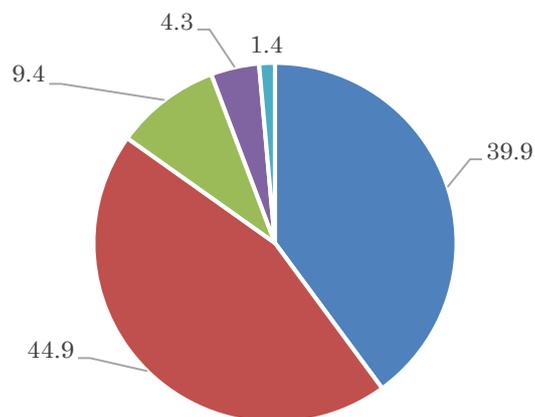
■とても良かった ■まあ良かった ■普通 ■あまり必要がなかった ■必要がなかった ■無回答

7) 受講した感想を教えてください
「組織における校務とその概要」



■とても良かった ■良かった ■普通 ■あまり必要がなかった ■必要がなかった ■無回答

8) コンテンツ内容は随時更新予定です
今後も利用したいですか



■ そう思う ■ ややそう思う ■ ややそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

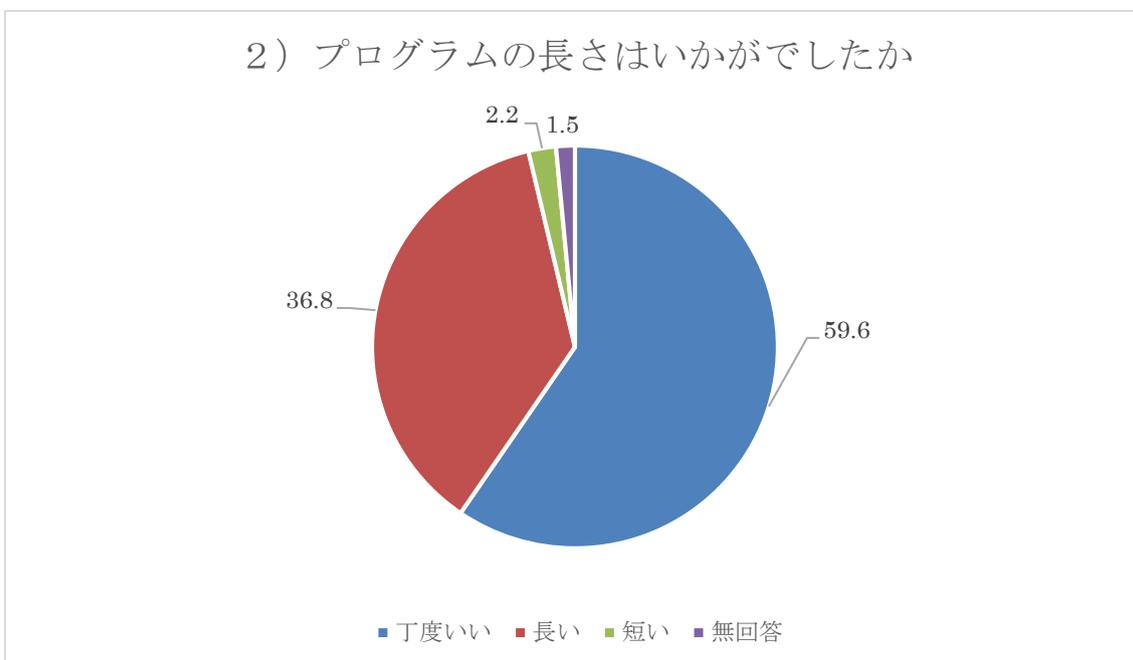
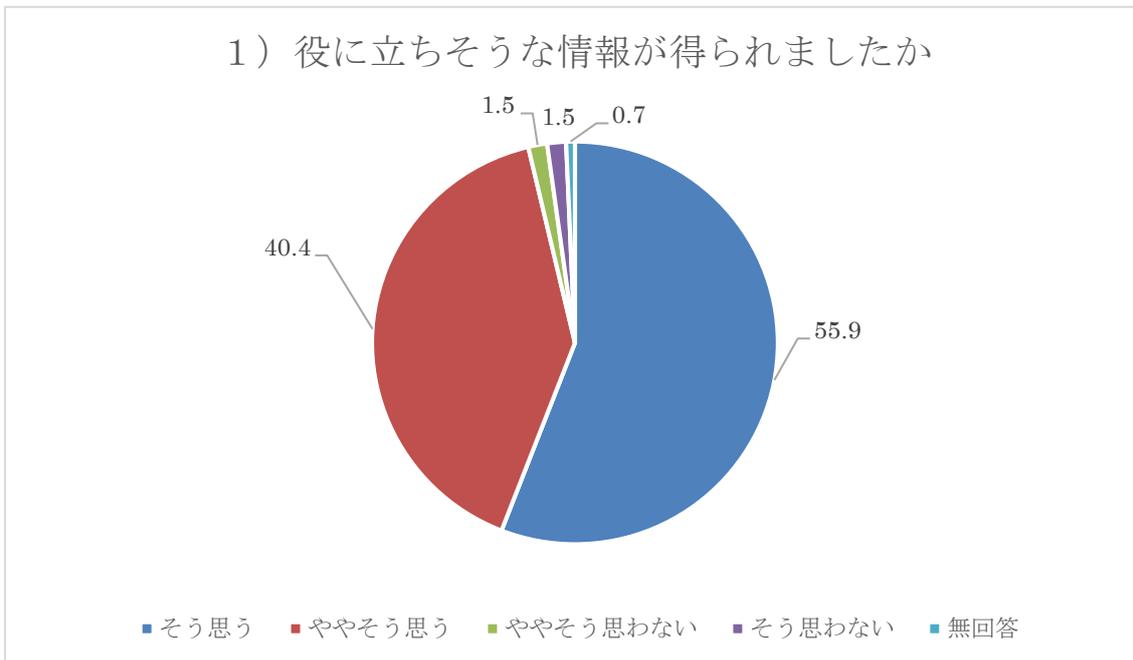
9) 「他に得ることが出来たら良いと思う情報はありますか」

- ・ 具体的な指導方法
- ・ 生徒への個別対応の方法
- ・ 基本的な校務の進行方法
- ・ 現場で必要とされる人材に関する具体的な情報

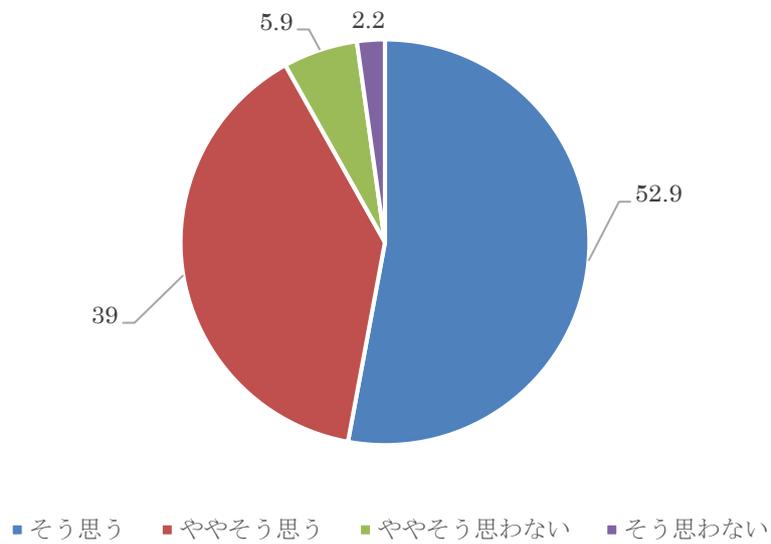
10) 「プログラム全般に関して良いところ、改善すべきところ」

- ・ ナレーションスピードが丁度いい
- ・ コンパクトに纏まっているように感じる
- ・ 図がイメージをより具体的にしてくれた
- ・ クイズの回答を考える時間に余裕がほしい
- ・ 字が少し小さいように感じる

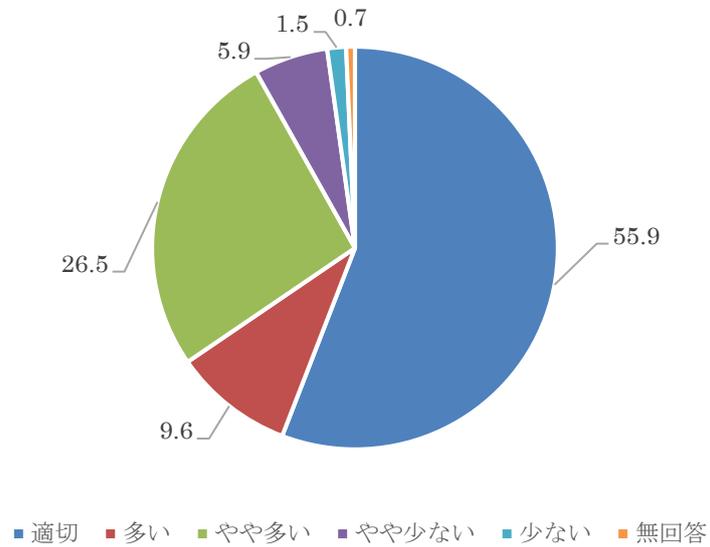
(2)「スポーツの文化的理解」



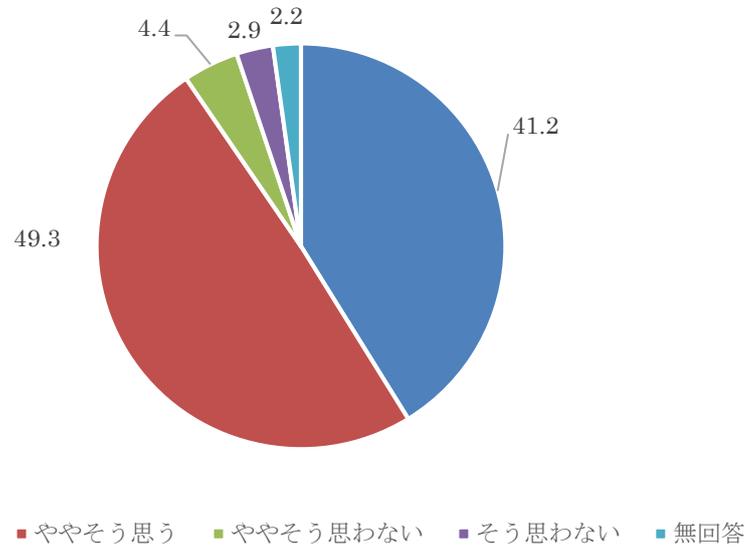
3) WEB上で情報が得られる利便性は感じられましたか



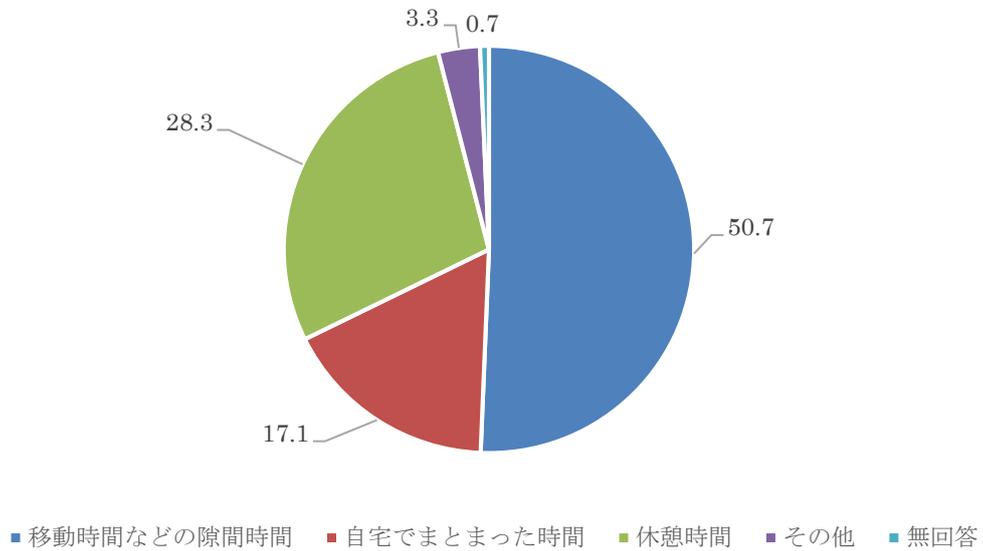
4) コンテンツの情報量はいかがでしたか



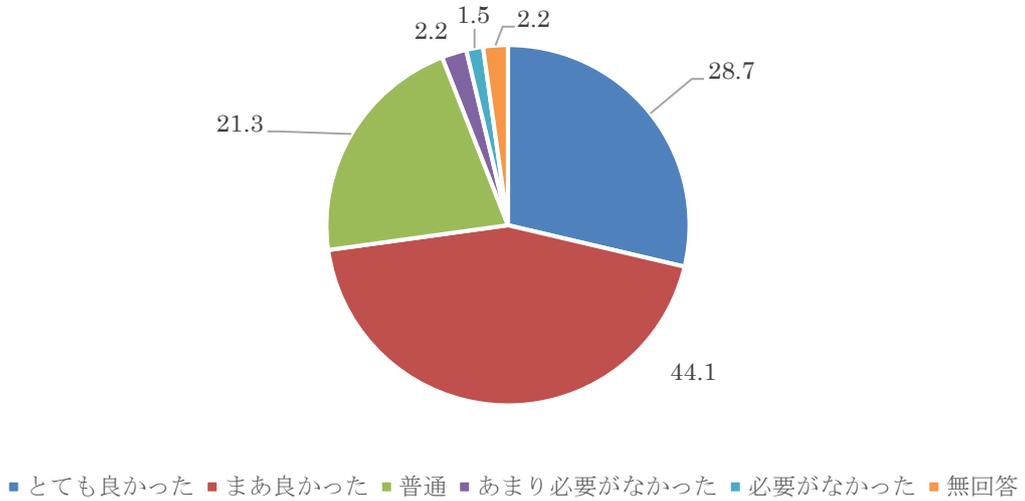
5) 得た知識は今後のキャリア形成に役立ちそうですか



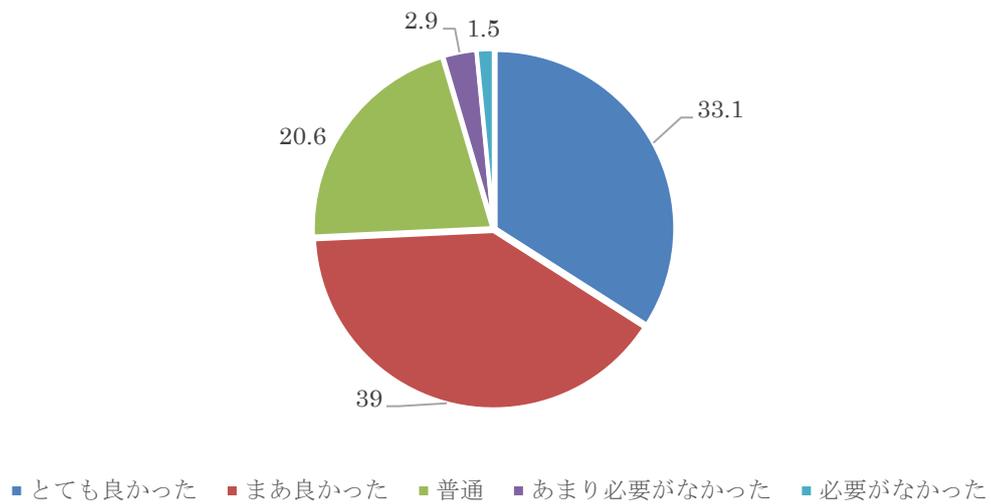
6) 学習プログラムをどのようなときに利用したいですか



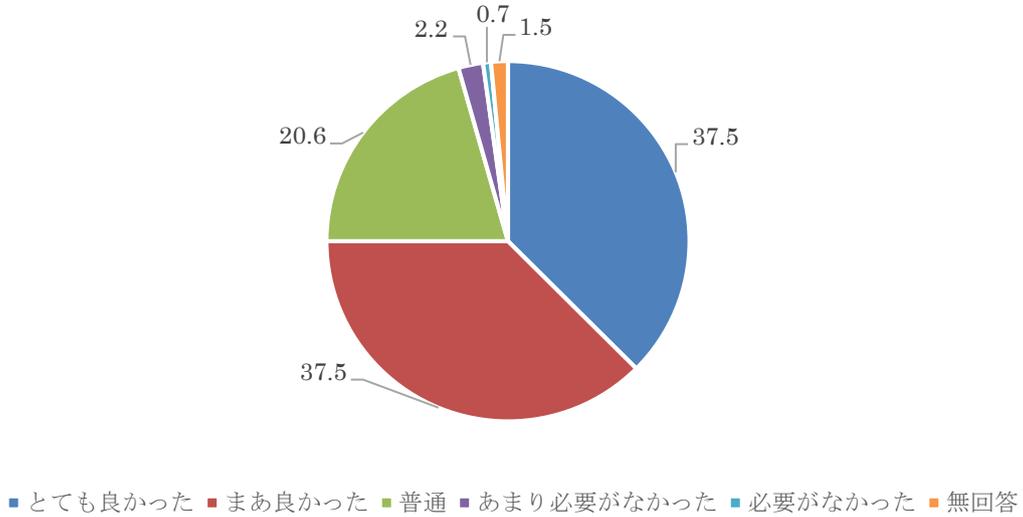
7) 受講した感想
「近代スポーツの誕生と発展」



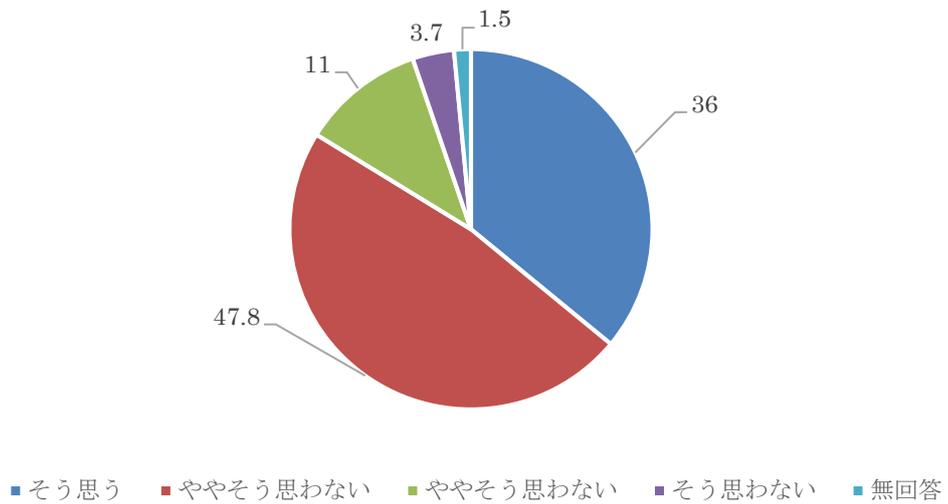
7) 受講した感想
「文化としてのスポーツの価値」



7) 受講した感想
「人間とスポーツのかかわり」



8) コンテンツ内容は随時更新予定です
今後も利用したいですか



9) 「他に得ることができたら良いと思う情報はありますか」

- ・現代に見合ったコーチング
- ・保護者連携での注意事項
- ・内発的なモチベーション向上など

10) 「プログラム全般に関して良いところ・改善すべきところ」

- ・1ユニットが短く、休み時間で学びやすい
- ・クイズ形式は面白いが少し簡単すぎであった
- ・携帯を横画面で閲覧した際に映らないことあった
- ・クイズ後に改めて動画を見てやってみたい

総括および将来の展望

1) 今年度事業の総括について

今年度は分科会①【開発】において46ユニット(230分)のプログラムを完成させることが出来た。三幸学園内部でのモニター受講も315名での実施ができ、事前の情報収集や、保育分野での経験を踏まえて、開発段階で重視したプログラムの方向性に関しても概ねポジティブな意見を受けることが出来た。

2) 次年度の事業について

分科会①では、第1に今年度の調査結果を踏まえ、大まかな方向性は変更せずに過去の教材(ユニット)との関連性を意識しつつ、教材の再編成及び新たなプログラムの開発を行う。新たなプログラムは34~40ユニット程度を検討している。

分科会②では開発後のプログラムを普及させるために各現場先で利活用の時間が長くなることが想定される。現段階での受講者数の見込みは、2019年度終了時点で累計1,500名、2020年度終了時点では3,500名と目標を設定している。

成果報告会当日資料

文部科学省
平成30年度「専修学校による地域産業中核的人材養成」事業
部活動指導員養成事業
成果報告会

2019年2月28日（木）
15:30-17:30

会次第

1. 理事長挨拶
2. 来賓挨拶
3. 本年度の取組み概要
4. 分科会①【開発】報告
5. 分科会②【普及】報告
6. 今後の事業展開について
7. 識者評価
8. 質疑応答・意見交換

1. 理事長挨拶

学校法人 三幸学園
理事長 昼間 一彦

2. 来賓挨拶

文部科学省 総合教育政策局
生涯学習推進課 専修学校教育振興室 室長補佐
宮本 二郎 様

3. 今年度の取組み概要

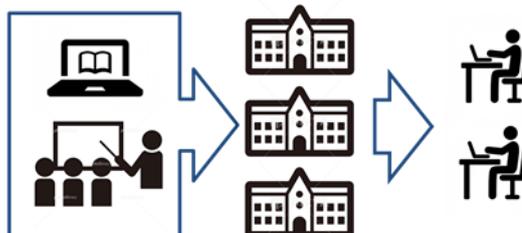
学校法人三幸学園
東京リゾート&スポーツ専門学校
兼子 大次郎

本事業の目的①

本事業で開発した
Eラーニング教材・研修

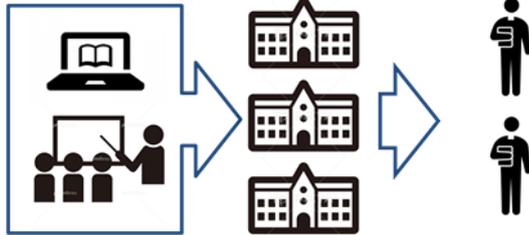
他の専修学校へ普及

社会人学び直しの
機会拡大



本事業の目的②

本事業で開発した Eラーニング教材・研修
 小・中学校 高等学校の部活動現場へ派遣
 教員の働き方改革



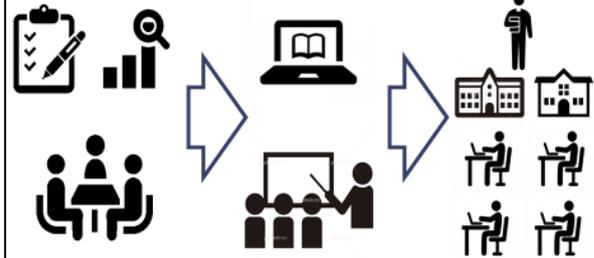
7

3か年事業の全体像

事前情報収集（保育実績含）
教材カリキュラム開発

Eラーニング教材・研修
開発・効果検証

教材の公開による
他の専修学校での展開
自治体への学び直し機会提供



8

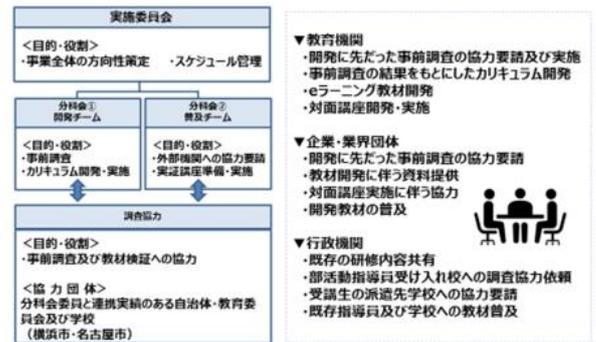
今年度の事業活動

事前情報収集（保育実績含）
教材カリキュラム開発



9

事業実施体制



10

4. 分科会①【開発】報告 (e-ラーニング学習プログラムの開発)

東京未来大学 こども心理学部 こども心理専攻長

藤後 悦子

11

分科会①「開発」委員一覧

氏名	所属(学校・企業・団体名)	職名
中西 純司	立命館大学	教授
藤後 悦子	東京未来大学	教授
平岡 拓晃	筑波大学	助教
荒井 秀幸	株式会社 R-body project	テクニカルディレクター
高岡 昌弘	東京リポートアトスポーツ専門学校	副校長
西條 康介	学校法人三幸学園	部門長
兼子 大次郎	学校法人三幸学園	教員

12

分科会①「開発」の目的・役割

事前調査

プログラム開発

研修実施

12

分科会①「開発」の目的・役割

事前調査

プログラム開発

研修実施

12

社会人の学び直しが進んでいない課題①

学び直し及びその成果に対する不安・懸念

○ 社会人学生が大学院において、「基礎研究・ケーススタディ」、「実務経験のある教員・教員」による教育手法を重視するのに対して、大学院は必ずしもそのような教育手法を重視していない。

【重視する教育方法】

<社会人学生(複数回答)>

教育方法	割合	順位	合計
基礎研究・ケーススタディ	32.9%	1位	1,195
実務経験のある教員・教員による教育	29.1%	2位	1,000
企業・実務現場での実習・実務経験	28.5%	3位	985
社会人学生同士の交流	22.5%	4位	775
基礎知識の習得	18.8%	5位	655
英語力の向上	18.2%	6位	625
専門知識の習得	17.8%	7位	610
社会人学生としての意識の醸成	17.2%	8位	585
社会人学生としての意識の醸成	16.8%	9位	575
社会人学生としての意識の醸成	16.2%	10位	555
その他	8.8%	11位	300

<大学院(複数回答)>

教育方法	割合	順位	合計
基礎研究・ケーススタディ	32.9%	1位	1,195
実務経験のある教員・教員による教育	29.1%	2位	1,000
企業・実務現場での実習・実務経験	28.5%	3位	985
社会人学生同士の交流	22.5%	4位	775
基礎知識の習得	18.8%	5位	655
英語力の向上	18.2%	6位	625
専門知識の習得	17.8%	7位	610
社会人学生としての意識の醸成	17.2%	8位	585
社会人学生としての意識の醸成	16.8%	9位	575
社会人学生としての意識の醸成	16.2%	10位	555
その他	8.8%	11位	300

△「平成27年度 先進的の大学改革推進委託事業 社会人の大学における学び直しの実施把握に関する調査研究報告書」(p.77)より作成

14

社会人の学び直しが進んでいない課題②

学習開始時の費用負担、とくに初期費用に対する負担感

大学等に期待する教育環境



16

社会人の学び直しが進んでいない課題③

学習時間や学習する時間帯についての不安

大学等において重視してほしい(重視している)教育環境

順位	社会人学生	企業用	社会人教育未経験者
1	安い授業料	社会人に配慮した時間帯の開講	安い授業料
2	社会人に配慮した時間帯の開講	短期間で修了できる	インターネットによる授業
3	教員の充実	インターネットによる授業	社会人に配慮した時間帯の開講

△「平成27年度 先進的の大学改革推進委託事業 社会人の大学における学び直しの実施把握に関する調査研究報告書」(p.77)より作成

16

社会人の学び直しが進んでいない課題

① 学び直し及びその成果に対する不安・懸念

② 学習開始時の費用負担、特に初期費用に対する不安感

③ 学習時間や学習する時間帯についての不安

①～③について配慮がなされたプログラムの開発が必要

ラーニングの積極的活用の検討

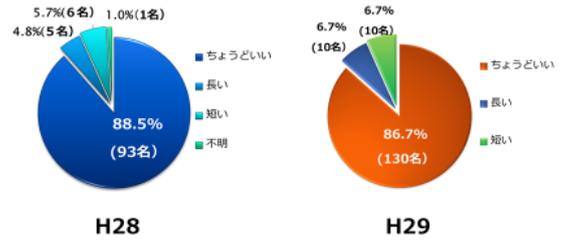
18

E-ラーニングの積極活用等による学び直し
講座の開設において整理をするべき項目

- ① どのような形での講座開設が最も効果的か
- ② どの科目をe-ラーニング化できるのか
- ③ どのような形態(動画・静止画・テスト形式)で、
どのような分量で、どのようなプラットフォーム
(JMOC、youtube、学校HP等)で提供すると
学び易いか
- ④ 学習評価をどのように行うか
- ⑤ 学習履歴の管理をどうするのか

文部科学省平成30年度「専修学校による地域中核的人材養成事業」事業概要より

保育分野の調査・実証実績
- 1ユニット5分の評価 -



社会人の学び直しにおける1ユニットあたり5分での適切さ

保育分野の調査・実証実績

Q：今後、どのような教材があればよいと思いますか

- ① より具体的な場面を想定した教材
 - ・実際に起こり得る様々なシチュエーションの対応例などが知りたい。
 - ・今回と同じ題材で、もう少し具体的な内容のものがあれば、さらに理解を深めるのに役立つと思います。
- ② 職員との関わり方を取り上げた教材
 - ・先輩後輩との関わり方
 - ・職員同士の連携
 - ・後輩との関わり、園長先生と後輩のパイプ役づくり。
 - ・後輩指導の仕方について。例えば、仕事に対する向き合い方が不真面目な後輩、伝えたことが伝わらない後輩などに対する対応の仕方。また、そういう後輩への仕事の振り分け方など。

具体例を盛り込んだケーススタディ

部活動・学校現場に関する連携や体制の理解

保育分野の調査・実証実績

Q：今後、どのような教材があればよいと思いますか

- ③ 「主任」の役割を取り上げた教材
 - ・主任の役割や保育内容、子どもの発達や心理について
 - ・主任としての役割

部活動指導員の役割
携わる生徒の発達や心理の理解

研修	研修内容				
	研修名	研修日	研修会場 (1日コース)	研修形式	研修者
研修1					
研修2					
研修3					
研修4					
研修5					
研修6					
研修7					

既存の自治体別研修から見られる傾向

- ① 学習時間の差 (年2回～連続した3日間まで)
- ② 教育・安全管理・指導法・マネジメント領域
- ③ 自治体別研修の領域の差



体系的に整理された研修プログラムが必要

本事業における分野カテゴリ

教育(ハラスメント含)

- ・運動系部活動に携わる指導者としての資質を身に付ける
- ・公教育に携わる指導者としての素地を身に付ける

Ex:) 「部活動指導員が起こし得る問題(ハラスメント)」
「教育制度と部活動」
「部活動を取り巻く社会的変遷」

30

本事業における分野カテゴリ

安全管理

- ・安全管理の為の環境整備と緊急時の対応を身に付ける

Ex:) 「教育現場における安全管理の法的責任」
「部活動現場における負傷・疾病の実態」
「学校における体制整備(緊急事態発生時の体制)」

31

本事業における分野カテゴリ

指導法

- ・個の発達段階に応じた指導法を身に付ける

Ex:) 「スポーツにおけるコーチング」
「スポーツ指導の基本原則」
「スポーツにおける暴力根絶に向けて」

32

本事業における分野カテゴリ

マネジメント

- ・公教育におけるマネジメントスキルを身に付ける

Ex:) 「学校における組織体制」
「部活動指導員の具体的業務」
「部活動組織のマネジメント」

33

2018年度開発のプログラムについて

教育(ハラスメント含) : 24ユニット

安全管理 : 8ユニット

指導法 : 5ユニット

マネジメント : 8ユニット

+イントロダクション : 1ユニット

“教育”分野を中心に5分/ユニットの**46ユニット分**を作成

34

2018年度開発のプログラムについて

学校の組織的理解

スポーツの文化的理解

35

5. 分科会②【普及】報告

学校法人三幸学園 東京リゾート＆スポーツ専門学校
統括部門長

高岡 昌弘

26

分科会②「普及」委員一覧

氏名	所属（学校・企業・団体名）	職名
高岡 昌弘	公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会	部長理事
井原 聡	一般社団法人 日本野球機構	常務理事
田村 英	公益財団法人 日本サッカー協会	理事
松村 直	一般社団法人 日本ラグビーフットボール協会	常務理事
宮田 大輔	スポーツデータバンク株式会社	取締役
三ノ井 真志	株式会社 楽天野球回	エグゼクティブ
高田 達	札幌ラグビーフットボール専門学校	副校長
伊藤 雅也	岐阜ラグビーフットボール専門学校	副校長
高田 浩弘	東京ラグビーフットボール専門学校	副校長
高橋 尚哉	横浜ラグビーフットボール専門学校	副校長
大島 謙八	大阪ラグビーフットボール専門学校	副校長
石田 隆	名古屋ラグビーフットボール専門学校	副校長
倉田 隆夫	福岡ラグビーフットボール専門学校	副校長
藤原 善介	学校法人三幸学園	部門長
高千 大太郎	学校法人三幸学園	教員

27

分科会②「普及」の目的・役割

外部機関への協力要請

実証講座準備・実施

研修実施

28

分科会②「普及」の目的・役割

外部機関への協力要請

実証講座準備・実施

研修実施

29

外部機関への協力要請

【実証協力機関】(予定)
 横浜市教育委員会
 名古屋市教育委員会
 一般社団法人日本野球機構
 公益財団法人日本ラグビーフットボール協会
 一般社団法人日本フィットネス産業協会
 スポーツデータバンク株式会社
 株式会社楽天野球回
 学校法人三幸学園リゾート＆スポーツ専門学校
 学校法人三幸学園スポーツ＆メディカル専門学校

40

分科会②「普及」の目的・役割

外部機関への協力要請

実証講座準備・実施

研修実施

41

分科会②「普及」の目的・役割

外部機関への協力要請

実証講座準備・実施

研修実施

44

2018年度の実証

全国9校の
リゾート&スポーツ専門学校・スポーツ&メディカル専門学校にて
「学校の組織的理解」「スポーツの文化的理解」の
e-ラーニングを受講⇒アンケート回答

対象者：リゾート&スポーツ専門学校・スポーツ&メディカル専門
学校在校生：180名 教員：135名 計：315名

プログラム開発のベースとなる“長さ”“学び易さ”などの
教材の質を問う項目が中心のアンケート

45

2018年度の実証質問項目①～⑧ 「教材の質について」

- ①役に立ちそうな情報は得られましたか
- ②プログラムの長さはいかがでしたか
- ③WEB上で情報を得られる利便性は感じられましたか
- ④ひとつのコンテンツの情報量はいかがでしたか
- ⑤得た知識は今後のキャリア形成に役立ちそうですか
- ⑥学習プログラムをどのような時に利用したいですか
- ⑦受講した感想を教えてください
- ⑧コンテンツ内容は随時更新予定です。今後も利用したいですか

44

2018年度の実証質問項目①～⑧について

学習プログラムの質を確認する項目

受講時間の長さ・情報量・利活用イメージ・興味関心



教材全体の方向性の確認・修正

45

2018年度の実証質問項目①～⑧ 「希望する内容について」

- ⑨ほかに得ることが出来たらよいと思う情報はありますか
- ⑩プログラム全般に関して良いところ、改善すべきところなど
自由に記述してください

46

2018年度の実証質問項目⑨～⑩について

次年度以降の学習内容に反映を検討する項目

受講ニーズ・項目の再設定・受講者の課題抽出

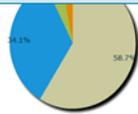


学習内容の確度向上

47

2018年度のアンケート結果① 「役に立ちそうな情報は得られましたか」

9割以上が内容に関して肯定的な回答



「学校の組織的理解」
 そう思う：58.7%
 ややそう思う：34.1%



「スポーツの文化的理解」
 そう思う：55.9%
 ややそう思う：40.4%

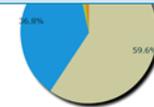
48

2018年度のアンケート結果② 「プログラムの長さはいかがでしたか」

「スポーツの文化的理解に関しては6分を超える内容であった」



「学校の組織的理解」
 そう思う：72.5%
 ややそう思う：26.1%

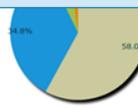


「スポーツの文化的理解」
 ちょうどいい：59.6%
 長い：36.8%

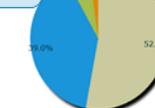
49

2018年度のアンケート結果③ 「WEB上で情報が得られる利便性は感じられましたか」

9割以上がWEBでの学習形態に肯定的



「学校の組織的理解」
 そう思う：58.0%
 ややそう思う：34.8%

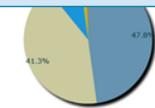


「スポーツの文化的理解」
 そう思う：52.9%
 ややそう思う：39.0%

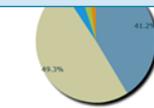
50

2018年度のアンケート結果④ 「得た知識は今後のキャリア形成に役立ちそうですか」

概念に関する項目がモニター受講対象であった影響も考えられる



「学校の組織的理解」
 そう思う：47.8%
 ややそう思う：41.3%



「スポーツの文化的理解」
 そう思う：41.2%
 ややそう思う：49.3%

51

2018年度のアンケート結果⑤ 「プログラムに全体に関して良いところ」

- ・1つの章の時間が短い為、空き時間に学び易いと感じた
- ・クイズがタイミングとして復習になった
- ・クイズ後のまとめで内容の再確認ができるように感じた
- ・スポーツの背景や価値を理解するきっかけになった
勝ち負けでなく、内在的な部分の認識が出来た
- ・図が関連性のある物でイメージがし易かった

52

2018年度のアンケート結果⑥ 「プログラムに全体に関して良いところ」

- ・音がなくてもわかるような仕様が良いのではないかと感じた
- ・クイズの回答までの時間が短いように感じた
- ・字が少し小さいように見受けられる
- ・横画面にすると文字が切れてしまうシーンがあった
- ・冒頭の物語にも音声が良いと感じた

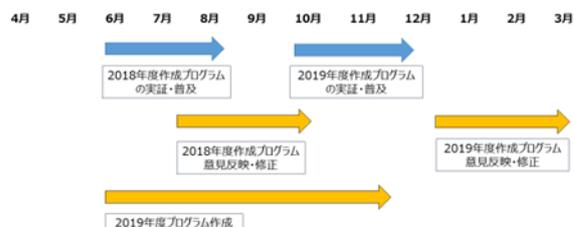
53

2018年度のアンケート結果⑦ 「他に得ることのできたらよいと思う情報」

- ・具体的な校務について
- ・現代に見合った指導法について
- ・内発的モチベーション向上の成功事例など
- ・保護者連携の注意事項など
- ・実際に起こった出来事の対処方法など

54

2019年度の実証スケジュール(案)



55

6. 今後の事業展開について

学校法人三幸学園 事業開発部 部門長

西條 康介

57

今年度事業の総括

事前情報収集(保育実績含)・教材カリキュラム開発



4分野46ユニット(230分)の開発

実証講座準備・依頼



在校生：180名 教員：135名 計：315名の受講者

58

次年度事業の展望

2019年度の実証スケジュール(案)



59

■ 2019年度

<養成学習プログラム>

教育：6ユニット

安全管理：13ユニット

指導法：15ユニット

<普及先・受講者>
教育委員会・関連団体
全国リゾート&スポーツ専門学校

2019年度終了段階

受講者数(累計)：1,500名

Cf. 2018年度採択段階：900名(累計)

■ 2020年度

<養成学習プログラム>

教育：37ユニット

マネジメント：8ユニット

指導法：8ユニット

<普及先・受講者>
教育委員会・関連団体
全国リゾート&スポーツ専門学校

2020年度終了段階

受講者数(累計)：3,500名

Cf. 2018年度採択段階：2,500名(累計)

60

7. 識者評価

明治学院大学 法学部客員教授
学長特別補佐（戦略担当）

伊藤 健二

61

8. 質疑応答・意見交換

62

本報告書は、文部科学省の生涯学習振興事業委託費による委託事業として、
東京リゾート&スポーツ専門学校が実施した
平成30年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

平成30年度 文部科学省委託事業
専修学校による地域産業中核的人材養成事業
部活動指導員養成事業

成 果 報 告 書

平成31年3月1日印刷
学校法人三幸学園 東京リゾート&スポーツ専門学校

〒113-0033
東京都文京区本郷4-12-6